

農業情熱物語

情熱ある農業を続けて三十年

田人観光いちご園 来年一月三日オープン

いわき市田人町旅人下平石地区の蛭田秀美さん（57歳）はサラリーマンとして東京で働いていました。30年前脱サラを決意、農業の経験がなかったが農業を志す強い意志で地元で活躍の場を移しました。当時田人地区内の80%の農家がコンニャク栽培。蛭田さんも初めてのコンニャク栽培でありましたが、研究熱心な蛭田さんは、たちまち面積を拡大されて収入も安定してきました。平成元年ころから輸入自由化などによりコンニャク相場が年々悪くなりコンニャク栽培に見切りをつけなければ夢に見た農業が終わってしまう思いで、標高150mの中山間地で比較的温暖であることから施設を利用して周年栽培できる小松菜栽培に着目、さらに施設園芸に自信をもち6年前に「いちご園」のオープン、今は、秋から翌春はいちご栽培、夏期を中心に小松菜栽培。

いちごの品種は、「あきひめ」でハウスの屋根を高めに造り高設溶液栽培方法を取り入れております。施設の面積1800㎡、15600本の

の苗。蛭田さんは

いちご栽培に林業の盛んな地区の特性を取り入れること、有機栽培に近づぐことにこだわりを持ち、いちご苗を植える土の代



わりに杉の樹皮を利用し、甘味を出すため肥料と水は点滴灌水の方法で栽培。最盛期には1日40人もいちご狩りのお客さんで賑う、採れたてのいちごを食べてほしいと出荷用に栽培しているのはいちご園の3分の1。施設の隣にはいちごアイスクリームの販売所もあり来園者に喜ばれております。将来は、倍の施設増設に意欲的です。年間を通してはつ子さん（妻）秀史君（長男）の3人（写真）とアルバイト1人による経営。詳しいことは田人観光いちご園へ電話0246-69-2448



蛭田さんご家族

田んぼの生きもの調査

田んぼの生きもの調査はJAいわき市の食農教育事業の一つで今年度初めて実施しました。

小川地区では児童十三人が

JAいわき市農青連小川支部と小川町西小川上野原地区の子供会の協力で六月二十八日田んぼに生息している生きもの調査を行いました。子供たちは、田んぼの中や、周辺を探索。カエルやゲンゴロウ、ヤゴ、イトミミズ、タニシ、アメンボウを発見し、図鑑で確認しました。全部で十八種類の生きものを確認することができました。子供たちは田んぼにたくさん生き物がいること、びつくり自然を大切にしなければいけないことを勉強しました。



図鑑で調べる児童たち



田んぼの生きものを探す児童



土を洗って生きもの探し

平六小五年生三十九人が授業で観察会

いわき市立第六小学校五年生は七月二日児童たちが田植えした田んぼで生きもの調査と水質検査を行いました。JAいわき市農青連神谷支部の皆さんが協力しました。

児童たちは、田んぼの中や、周辺の水路を探索しました。ドジョウやカエル、ザリガニ、アメンボ、タニシなどで図鑑で確認しました。全部で二十二種類を確認することができました。

たくさん生き物がいることに驚き、田んぼがなければ、生きものが生息できないことや自然を大切にしなければならぬことを学びました。平六小は秋にも稲についている生きものを観察する予定です。

九月には錦町のいわき市立汐見ヶ丘小学校五年生児童六十名も実施